

会 場： 県立浜山球場

「2年ぶりの夏はじまる！開幕戦は隠岐が勝利」

第103回全国高等学校野球選手権島根県大会が本日開幕した。開会式は雷のため約50分遅れての開始となった。開会式は簡略化され、例年のような場内を一周するのではなく、外野から内野への行進のみに留まった。前回大会優勝校の石見智翠館に続き、昨夏の独自大会優勝校である益田東が行進し、その後は組み合わせの順に進んだ。選手宣誓は益田翔陽主将により行われた。昨年は新型コロナウイルス蔓延により中止となったため、同大会は約2年ぶりの開催となる。順調にいけば今月29日島根県立浜山球場で決勝戦が行われる予定で、1・2回戦は無観客で3回戦以降は浜山・松江ともに有観客を予定している。

開幕戦は松江東と隠岐の試合で、昨夏の独自大会でも対戦したカードとなった。試合は1回裏に隠岐が1死1塁から3番岡田颯の左線への適時2塁打で先制すると、続く4番平井のセンターへの適時打で2点目を奪った。更に4回裏にも押し出しと、この試合2本目となる岡田颯のレフトへの適時打で2点を追加した。対する松江東も5回表に2番永海のスライダで1点を返すと、7回表にも1番小川の右中間への2塁打を皮切りに3番松浦のライトへの適時打で1点を返したが反撃もここまでだった。8回裏に隠岐の8番牧野がスライダを仕掛け、一塁手の失策が重なり1点を奪い、そのまま5対2で開幕戦は隠岐が勝利した。

[illegible][illegible][illegible][illegible]